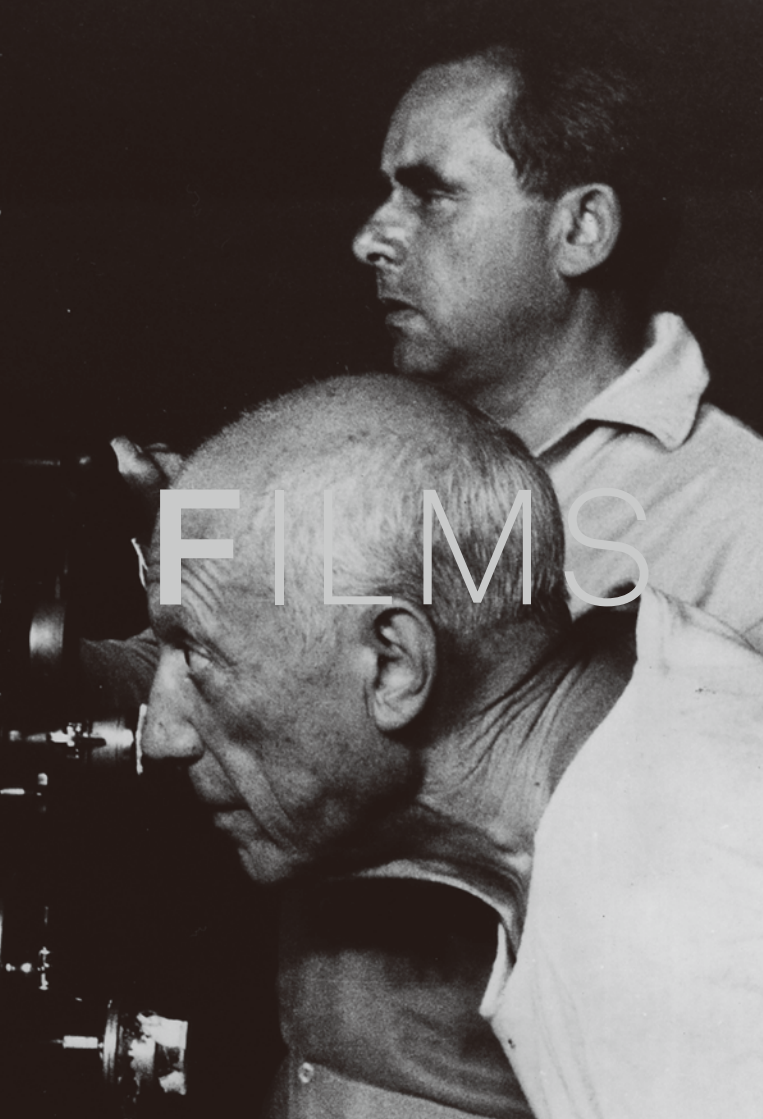




NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS

2013.04—08



NFC所蔵作品選集

MoMAK FILMS

2013 ⁰⁴ April
⁰⁸ August

information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃(開場は13:30)

上映作品は予告なく変更する場合があります。
上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。
www.momak.go.jp/films/

料金 | 1プログラム 500円(当日券のみ)

*本券でコレクション展もご覧いただけます。

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。
当日13:30より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。
会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)
東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

企画協力 | 川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)
富田美香(立命館大学映像学部准教授)

event

監督作品上映記念
松本俊夫氏によるアフタートーク

松本俊夫氏(映画監督)
[聞き手] 川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)

日時 | 2013年4月20日[土] 午後3時-4時30分
会場 | 京都国立近代美術館1階講堂
定員 | 100名

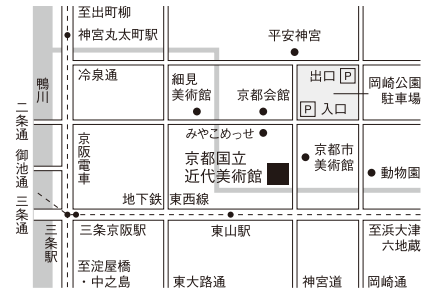
* 聴講は当日の上映作品を鑑賞される方に限ります。
アフタートークの整理券は、当日13時30分からの上映会入場券販売と同時に希望者に配布します。

路線



access

京都国立近代美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL 075 761 4111
www.momak.go.jp



- ・JR・近鉄京都駅前(A1のりば)からバス5番 岩倉行「京都国会館美術館前」下車すぐ
- ・JR・近鉄京都駅前(D1のりば)からバス100番(急行)銀閣寺行「京都国会館美術館前」下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三條駅からバス5番 岩倉行「京都国会館美術館前」下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四條駅からバス46番 平安神宮行「京都国会館美術館前」下車すぐ
- ・市バス他系統「東山二条」または「京都国会館美術館前」下車徒歩約5分
- ・地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MoMAK F Column

美術館で映画を観る

京都国立近代美術館(MoMAK)と東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)の共同主催による定期上映会「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films」は、NFCが所蔵する約6万本におよぶ内外の名作映画の貴重なフィルム・コレクションから、外部の映画研究者の協力のもと独自のテーマで特集プログラムを組み、これまで年間5回の開催を通して110本の作品を取り上げてきました。2009年にドイツ文化センター(京都)の協力を得て同センターホールを会場としてスタート、2010年から京都国立近代美術館の講堂へと場所を移し、今年で5年目を迎えます。上映作品の中には、一般的に親しまれている古典的名作から、近年断片のみが見つかった実験映画のフィルムなど大型の映画館ではなかなか取り上げにくい作品まで含まれており、学生などの映画初心者だけでなく、往年の熱心な映画ファンにとっても、何らかのかたちで新鮮な驚きと発見がもたらされるよう工夫しています。

今年のMoMAK Filmsでは、6月の〈美術と

映画、映画美術〉、8月の〈映画をめぐる映画〉など、今秋に当館で開催予定の展覧会「映画をめぐる美術—マルセル・ブロータースから始める」(会期:9月7日—10月27日)にもとづく上映プログラムを予定しています。この展覧会では、国内外の現代の美術家による過去の映画作品の参照・解読を通して生み出された作品に着目し、今日のフィルムや写真などを用いた創作における問題意識を探ることを目的としています。展覧会はベルギーの詩人であり芸術家のマルセル・ブロータース(1924—1976)が1972年に発表した虚構の美術館シリーズ《近代美術館驚部門セクション・シネマ》の再構成を起点として展開しました。1968年から74年の間に《近代美術館驚部門》を次々と発表したブロータースは、歴史や文学、広告、近代美術などとともに「映画=シネマ」を一セクションとして取り上げました。このシリーズを通じてブロータースが投げかけた「近代美術館とは何か」という問いは、美術館と映画との関係についての考察へと私たちを導いてゆきます。今から50年前に京都国立近代美術館の開館前夜祭として『アンダルシアの犬』と『三文オペラ』の上映(映画と講演の夕べ)1963年4月25日、京都国会館)が開催されたことも、この問題

について考える手掛かりの一つとなるかもしれません。また今日、美術館が映画を展示/上映することについても、さまざまな議論が提出されています。特に、映画館などのパブリックな環境での鑑賞以外に、テレビやスマートフォン、動画共有サイトの利用による私的な閲覧・鑑賞が容易となり、人々の映画体験が多様化するなかで、美術館は映画あるいは映像作品を見せることをどのような経験として位置づけられるのか、今年のMoMAK Filmsも含めたさまざまな機会を通じて実験・検証してゆければと思います。

牧口千夏(京都国立近代美術館研究員)

